

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078000108
法人名	医療法人 十連病院
事業所名	グループホームじゅうれん
所在地	福岡県久留米市三潴町西牟田6557-89 (電話) 0942-65-1555

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H22年 1月 14日
評価確定日	H22年 3月 1日

【情報提供票より】 (平成21年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 10日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	22 人
常勤	14人
非常勤	8人
常勤換算	18人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	(有) (100,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年12月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安本病院・十連病院・大石歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、田園地帯の中の小高い丘にあり農業用のため池を中心とした公園に隣接し、母体法人の病院を中心に関連福祉施設が並んでいる。利用者の散歩道にもなっている隣接公園の池越しに観る2階建ての建物は、明るい外観となっている。事業所独自の理念は「地域の皆様とあるがままの暮らしを」と簡潔で解りやすく、全職員は日々の支援で具現化に取り組んでいる。地域の祭りの時は法人の敷地を駐車場として開放し、秋に事業所で開催する文化祭には地域の方々を招待する等、地域との交流し、また連携を図っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題について、全職員で改善計画シートを作成し、記録用紙の様式を変更する等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で意見交換し、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。運営推進会議で出た意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会や苦情箱を設置している。家族等の来訪時に意見、不満、苦情を聴取するよう努め、家族からの要望には速やかに対応している。事業所以外の第三者相談窓口については、利用開始時に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、清掃や祭り等、地域活動・行事に参加している。また事業所の行事に地域の方に参加してもらう等、交流がある。地域の保育園と定期的に交流し、中学生の体験学習を受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域の皆様とあるがままの暮らしを」と地域密着型サービスの視点がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼時や毎月の勉強会等で理念の共有化を図り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃や祭り等、地域活動・行事に参加している。また事業所の行事に地域の方に参加してもらう等、交流がある。地域の保育園と定期的に交流し、中学生の体験学習を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で意見交換し、管理者が集約している。前回評価の改善課題について、全職員で改善計画シートを作成し、記録用紙の様式を変更する等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。運営推進会議で出た意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は行政担当者への報告・相談等で、日常的に連携を図っている。地域包括支援センター圏域・事業所区域での会合等で、行政・地域包括支援センターの担当者と意見交換の機会を多く持ち、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人・事業所内での勉強会や外部の権利擁護研修に参加する機会がある。また伝達研修を行い、全職員へ周知を図っている。利用者、家族には、入居時や必要に応じて制度について説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている	月1回、事業者便りを発行し、利用者の暮らしぶりや行事を報告している。家族来訪時には健康状態等の報告や行事時の写真等手渡している。金銭管理については、利用者が買い物をした際は事業所が立て替えし、家族へレシートを渡す等している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や苦情箱を設置している。家族等の来訪時に意見、不満、苦情を聴取するよう努め、家族からの要望には速やかに対応している。事業所以外の第三者相談窓口については、利用開始時に説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員から個別に話を聴く等コミュニケーションを図り、離職を抑える努力をしている。異動・離職に際しては引き継ぎ期間を十分に取り、利用者への影響を防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象者から排除しないようにしている。また、法人全体での教育訓練、資格取得等、職員の自己実現が保証されるように安心して働ける職場環境づくりに努めている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人全体で全職員の教育・研修を行い、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。いつでも学べるようスライドやビデオを準備している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、全職員が日常的に学ぶことを推進している。職員は希望すれば外部研修に参加できる機会が保障されている。研修内容は全職員が共有できるよう伝達研修で報告し、共有化を図っている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークに加入し、管理者や職員は勉強会に参加して、他事業所の職員と交流を行っている。また意見交換を行い、サービス向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や自宅訪問、デイサービスの利用からの移行等、馴染みながら関係を築くよう家族等と相談しながら工夫している。入居後しばらくは、本人と家族等の気持ちに副いながら訪問してもらう等、一人ひとりに合わせた配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や掃除等を共に行い、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらう場面がある。プランターでの花・豆作り、白菜・らっきょう等の漬物、おやつ作り等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、職員は利用者に声をかけ、思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や行動から推し測ったり、家族等から情報を得て本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族の思いや意向及び全職員の意見や気づきを取り入れ、個別具体的な介護計画を作成している。家族へ説明を行い、同意の署名をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、アセスメントをして介護計画を見直している。また、利用者の状態変化や状況に応じて新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院や訪問看護ステーション等と連携し、早期回復や入院回避への取り組みを行っている。また本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援を柔軟に行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関での受診や往診が受けられるよう支援している。また、家族等と受診時の通院方法や伝達方法等について話し合い、柔軟に対応している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、事業所の方針がある。家族等の意向を大切に、医療機関と連携し、職員を含め全員で方針を共有し、支援している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応や言葉かけを心がけている。また法人の内部研修等で、個人情報の保護やプライバシーについて学ぶ機会を持ち、全職員で周知徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は特に定めておらず、利用者一人ひとりのペースやその日その時の本人の気持ちを大切に、買い物や散歩等、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けをしている。職員は、利用者と同じものを同じテーブルで食べている。食事が楽しみなものになるよう利用者の嗜好を考慮し、食材選びや調理を工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて、回数や時間は柔軟に対応している。入浴拒否の利用者には、言葉かけや対応を工夫し、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ることを把握し、食事の準備、洗濯物干しやたたみ等、役割を支援している。また、生活歴や趣味を活かし、漬物作り、キーボード演奏等、楽しみごと等の支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調に配慮して、利用者の希望にそって散歩や買い物等に出かけている。また車椅子の利用者が外出できるようリフト車を利用し、定期的にバスハイクを計画して外食や季節の花見、季節の祭り等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やベランダ、居室は施錠していない。職員は、利用者の外出傾向を把握している。敷地内の母体病院や系列事業所、近隣の住民に声かけや見守り等、協力が得られる関係を築いている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。運営推進会議を通じて、地域住民に参加協力依頼をしている。非常用食料・飲料水・備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量について、全利用者の記録がある。献立は、栄養士が利用者の嗜好等を考慮し、作成している。また、母体病院の管理栄養士のチェックとアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングにソファを設置し、利用者はテレビ観賞やうたた寝をし、思いおもいに過ごしている。また、フローア内に季節の花や外出時のスナップ写真、利用者作成の書を飾る等し、家庭的雰囲気配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の馴染みの家具等を持ち込み、家族写真や花を飾って、一人ひとりが安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※ は、重点項目。